

弘前大学北日本新エネルギー研究所
「風車ブレードメンテナンスロボットの現地試験および講演会」開催

弘前大学北日本新エネルギー研究所では、地域貢献を研究所のミッションの一つに掲げ、北日本地域に豊富に存在する再生可能エネルギーを中心としたエネルギー及び寒冷地特有のエネルギーシステムに関する研究を進めています。

同研究所では、風力発電設備容量が国内一位の青森県において、風力発電におけるメンテナンス技術の発展・地域普及を目的として、「公益財団法人みちのく・ふるさと貢献基金」の助成により、平成 29 年 5 月「風車メンテナンスの青森研究会（WMA 研究会）」を発足しました。

青森県における風力発電設備メンテナンスに関する地元での取り組みを活性化し、今後増大する市場で地域が活躍できる場を見出すことを目的として、平成 29 年 7 月 24 日（月）、風車ブレードメンテナンスロボットの現地試験と風車メンテナンスの講演会を鱈ヶ沢町で開催しました。

第一部は、鱈ヶ沢町の市民風車「わんず」にて、風車ブレードメンテナンスロボットの現地試験を行いました。冒頭、森山ディーゼル株式会社宮本政一氏及び豊通ケミプラス株式会社浜村圭太郎氏から試験概要の説明が、本学大学院理工学研究科の竹囲年延助教からロボットの機材説明が行われました。試験では、ロボット上部のカメラがブレード（羽根）表面の状態を撮影し、送信された映像が地上のパソコンで確認されました。また、遠隔操作で表面の修復や落雷時の導通試験も可能となり、安全で効率的なメンテナンスの実現が可能となります。

第二部は、ホテルグランメール山海荘に会場を移し、風力発電に関する最新の状況についての講演会が行われました。WMA 研究会代表の当研究所本田明弘教授による風車メンテナンスの青森研究会の趣旨説明に続き、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構新エネルギー部風力・海洋グループ統括調査員伊藤正治氏から「NEDO における風力発電の取り組み」について、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授の飯田誠氏から「スマートメンテナンス技術研究開発 風車 SCADA データによる故障トラブル検出」についてそれぞれ講演が行われました。

参加した、風力発電事業関係者および産学官金の関係者ら約 60 名は、風力発電の動向やスマートメンテナンス技術開発や研究成果に熱心に耳を傾け、活発な質疑が行われ、風車メンテナンスに関する関心の高さがうかがわれました。

